

芸術鑑賞会 『一人芝居』

日時：令和4年10月25日（火）

場所：袋井南中学校体育館

企画：TOMO☆PROJECT

照明：(株)セリオ 守屋昭

音響・プロジェクターオペレーター：松尾朋虎

演目・演者：上演1『森のくまさんの謎』 川瀬義人 [三島市]

上演2『二十歳—ハタチ』 赤堀 愁 [菊川市]

上演3『日吉町原発2』 佐藤剛史 [静岡市]



一人での演劇を見たことのない僕にとって、『一人芝居』はまったく、未知の世界でした。そんな中見た、一人での演劇は、僕の想像をひっくり返すものでした。

一人から広がる無限大の想像、とても一人とは思えず、また見たい！と思いました。全校生徒を相手にしているのに、一人一人に語りかけているようで、不思議な魔術みたいでした。寒くても笑みが自然にこぼれました。

本当に楽しい時間でした。また機会があったら見たいと思いました。

演劇は初めて見たので、とても新鮮でした。役者のみなさんは細かな表情や仕草、声までも役になりきっていて、迫力もあったし、情景が目に見えてきてとても楽しかったです。今まではあまり興味がなかったけれど、この鑑賞を通して興味がわいてきたので、機会があればぜひ見に行きたいと思いました。

みなさんの「自分の道を追求する姿」を見ていて勇氣をもらえて、自分も頑張ろうと思うことができました。貴重で有意義な時間を創ってくれた3人の役者さん、スタッフのみなさんに感謝の思いしかありません。

プロの方の演劇を見る機会はなかなかなく、貴重な時間を過ごすことができました。最初の川瀬さんの演劇では、普段は考えようとしなかった童謡『森のくまさん』の歌詞の謎を解き明かす内容でした。言葉のとらえ方を紐解いていく流れは、いつこのようにことを考えついたのかと驚きました。赤堀さんの演劇は、今の20歳、昔の20歳を比較したり、20歳で抱えるであろう葛藤を表現したりしていました。最近、成人年齢を18歳に引き下げたことで、自分を見失ってしまうかもしれないと思ったので、自分を見失わないようにしたいと思いました。佐藤さんの演目では、一人で演じているのに、他にも何人かいるような感覚になり、見せ方が上手だと思いました。

どれもとてもおもしろく、引き込まれるような演目でした。

会話や伝えるための言葉が相手がない状態で演じられていることを見てとても驚きました。最初はつかめなかった内容も、中盤になるとすっかり分かるようになっていて、難しい話なのにもかかわらず、はっきりと頭に残りました。それぞれの演目が個性的でワクワクした気持ちで見られました。

普段、会話は2人以上必要ということが当たり前で、一人でしゃべる方が怪しく見受けられますが、演劇を見て、気持ちの表し方を表現するための新たな方法を見出すことができました。とても興味深く、難しいけれどおもしろかったです。

一人芝居を初めて見たので、最初はずっと話を聞いたり、紙芝居を見るのかな、と思っていました。でも、森のくまさんを聞いているうちに、芝居というより漫才に近いと思え、親近感がわき、楽しむことができました。約25分間の話に入り込み、本当はいない人が見えたり、状況を想像させたり、芝居ってすごいなと思いました。

ライトや音響を使った話、スライドを使ったプレゼン形式の話、何も使わずに本当に一人で演じきる話、どれも目と耳を使い、楽しめる内容でした。

本日は私たちのために素晴らしいお芝居をありがとうございました。

芸術鑑賞会が一人芝居だと聞き、落語みたいなものかと想像して身構えていましたがキャッチーな内容とパントマイムのようなコミカルな動きで楽しめました。この場所にはいない人たちがいるという仮定でやりとりすることはさすが役者さん、目を見張るものがあり、見えない人たちが見えるような錯覚と第六感が目覚めるような貴重な体験をさせていただきました。違う演目も見たいです。 *生徒会長お礼の言葉*

